



地域医療連携 だより

第 4 号

平成 21 年 4 月発行

富山通信病院

地域医療連携室

病院長あいさつ

春爛漫のいい季節になりました。病院隣の護国神社境内や裏の松川縁の桜が満開です。

昨年 7 月に開設した地域連携室が好評です。地域連携室は各保健医療機関が機能特化して互いに手を結び合うネットワーク経営の中で、重要な役割を担っています。開業医の先生方から紹介患者を病院に受け入れる機能や、紹介患者の外来予約や検査予約を行う一方、老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、開業医などへの紹介を行っています。



(院長 高田 正信)

富山通信病院の地域連携室は病院 2 階の東にあり、大上外科部長(兼務)、藤野副看護師長(皮膚排泄ケア認定看護師)、平尾看護師、藪下医療事務員が活躍しています。数多くの病院や開業医から患者の紹介/逆紹介や検査業務の手伝いをしています。

検査業務では大腸内視鏡や胃・十二指腸内視鏡の検査の依頼が多いようです。

また、在宅看護支援として、内視鏡的胃瘻造設(PEG)や中心静脈栄養(IVH)ポートの依頼もふえています。また、地域連携室では開業医を戸別訪問して、病院医師の紹介パンフレットを配ったり、病院の紹介をしたりもしています。

4 月に医師の移動がありました。清水先生が済生会富山病院外科部長に移動になり、湯口外科医長が着任しました。内科、整形外科、産婦人科、眼科の医師は昨年度と変わりありません。

当院には病院の施設や設備を開放してかかりつけ医と当院医師が共同で診療ができる開放病床があります。利用登録医届けをしていただければ運用できますのでご利用下さい。

毎月第 3 火曜日には開放病床症例検討会を行っており、1 症例を検討し学ぶ形式で行っており好評です。どうぞご参加下さい。

富山通信病院経営理念

- 市民に開かれた信頼される病院を目指し、最高の医療サービスの提供に努める。
- 企業立病院として社員の健康保持・増進に努め、地域の医療機関と連携を密にし、健全な経営に努める

開放病床症例検討会

○ 第98回開放型病床症例検討会サマリー（内科：老子 善康）

胃癌による胃全摘の既往があり、多発性脳梗塞や褥瘡、嚥下性肺炎、心房粗動など多くの合併症を伴いながら、肝障害が出現し、その原因診断のピットホールに気づかされた症例です。

症例は82歳、女性で平成19年9月ごろより認知症が顕在化し、平成20年1月、某老健施設入所中であったところ、発熱、昼夜の逆転、摂食不良のため、平成20年2月11日県立中央病院に入院となりました。

その後、食事も全量摂取可能となりましたが、微熱が続くため、当院に紹介入院。当院入院直後より、ふたたび食欲不振となり、頭部CTにて、新たに小脳梗塞をみとめ、キサンボンおよび中心静脈栄養の治療を開始しましたが、肝障害が出現しました。また仙骨部の褥瘡膿瘍に対しドレナージを行い、褥瘡膿瘍は消失しました。状態も安定し、認知症の進行もないため、5月21日腸瘻を造設しました。

当初腹部CTや腹部超音波検査より、非アルコール性脂肪性肝炎を疑っていましたが、AST ALTの値は2桁内で推移しました。平成20年6月中旬M病院に転院となりましたが、7月17日黄疸と総胆管の拡張を指摘され、再入院となりました。

上部消化管内視鏡検査の再検により、乳頭膨大部近傍に顆粒から結節、乳頭状の隆起性病変を認め、生検組織から低分化腺癌が発見されました。

本症例はERBDにて減黄に成功したものの、意識障害と嚥下性肺炎の併発により、多臓器不全となり永眠されましたが、フロアーからは、どの時点でどんな臨床症状で悪性腫瘍の存在に気づくことができたか、CTの所見や検査データを振り返りながらの質問がありました。

勉強会では、十二指腸乳頭膨大部領域癌の疫学や最近の診断能の限界と進歩についてご紹介させていただきました。

乳頭部癌の5年生存率

病期	N	5年生存率 (%)	TNM分類
I a	218	74	T1 N0 M0
I b	255	66	T2 N0 M0
II a	252	41	T3 N0 M0
II b	483	30	T1-3 N0 M0
III	38	34	T4 AnyN M0
IV	15	0	AnyT AnyN M1
N stage			
N0	518	59	
N1	749	28	

T1: 膨大部かO d d i括約筋内に限局 T2: 十二指腸壁に浸潤

T3: 膵浸潤あり T4: 膵周囲隣接組織浸潤あり

O'Connell, et al. Ann Surg Oncol 2008; 15:18

○ 第99回開放型病床症例検討会サマリー（内科：長澤 秀彦）

今回の症例は、心気症による前胸部不快感を頻繁に訴え、老人性認知症と夜間譫妄を伴い対応に苦慮した一例である。

症例は88歳、男性。肺結核（胸郭形成術）、高血圧、胸部解離性大動脈瘤（保存的治療）、脳塞栓（後遺症なし）、慢性心房細動の既往があり、総合病院の内科外来で降圧治療、抗凝固療法、在宅酸素療法などを受け病状は安定していた。

83歳頃から頻繁に前胸部不快感と寒気を訴え度々同院を受診していたが、症状の原因となる身体異常は認めず、デパス内服やセルシン静注が有効であった。

87歳時に同院精神科で身体表現性障害（心気症）および老人性認知症と診断され、デパスへの依存がみられるため抗精神病薬に変更された。その後も前胸部不快感のため同院を頻回に受診していた。

88歳時に同院内科に入院し抗精神病薬（デジレル、リスパダール）を調整されたが、症状の訴えは続き、夜間に不眠と不穏もみられた。同院入院2ヵ月後、当科に転院した。当科入院中、朝を中心に覚醒中ほぼ常に前胸部不快感と寒気を訴えて執拗に処置を求めた。診察・検査は問題ないという病状説明で一時的に納得しても、認知症による短期記憶障害のためすぐに訴えを繰り返した。他のことに注意を向けさせる（会話、歩行器歩行、漢字・計算問題）ことにより訴えが一時的にみられなくなっていた。また、夜間譫妄（帰宅している妻を執拗に呼ぶ）がみられた。

常時見守りが必要なため妻と付添人が交代で付き添った。その他、入院中に転倒後外傷性クモ膜下出血、仙骨部褥瘡、嚥下性肺炎を発症し治療した。当科入院3ヶ月後、療養型病院に転院した。

検討会出席者から、胸部症状と心不全との関連性、大動脈解離で生死をさまよったこととの関連性についての質問や、認知症による短期記憶障害が症状の増幅因子であるという意見があった。

また、出血性合併症発症時のワーファリンの使い方について意見が交わされた。

勉強会では、神経症の分類方法の変遷と、心気症を含む身体表現性障害の診断、治療について勉強した。

心気症の診断基準の要点（DSM-IV）

- A 自分が重病にかかる或いはかかっていると誤認し、それにとらわれている。
- B 適切な診断を下されていても、重病であるというとらわれが無くならない。
- C 基準Aの確信は妄想的ではなく、かつ外見についての限られた心配でもない。（妄想性障害や身体醜形障害とは異なる）
- D そのとらわれにより、著しい苦痛や社会的・職業的・その他の機能障害が生じている。
- E 6ヶ月以上続いている。
- F 他の精神疾患にあてはまらない。

開放病床症例検討会は、毎月第3火曜日午後7時から開催しています。
次回は4月21日（火）、5月19日（火）、6月16日（火）の予定です。

学会参加記

○ 日本環境感染学会に参加して（外科部長：大上 英夫）

さる2月27日～28日、横浜での第24回日本環境感染学会に参加しました。今回の総会は、「地球環境の変化と環境感染」がメインテーマにとりあげられ、話題性に富んだ講演が数多くありました。一般演題737題、教育セミナー23題、シンポジウム13題などが企画されていました。

今までは地方会、研究会に参加し勉強していましたが、さすがに全国学会では非常に多くのことを学ばせて頂きました。当院では昨年4月よりようやくICT活動を始め、職員の意識も高まっています。早く他院のレベルに追いつくようにと感じた2日間でした。

○ 日本フットケア学会に参加して（副看護師長：金尾 邦子）

2月に横浜で、第7回日本フットケア学会学術集会が開催されました。一般演題、講演（特別・教育）、シンポジウム以外にフットケア実践教室があり、直接指導を受けてきました。

平成20年より糖尿病足病変の予防目的で、糖尿病合併管理料（170点）が算定され、フットケアの必要性が見直されています。サロンケアとは異なり、爪、皮膚、足の形・動き、血流障害、神経障害など足の観察から足病変を早期に発見することが主の目的です。

私自身、爪のケア（爪用ゾンデ、爪切り、ヤスリ、グラインダーなどを使用）について学び、当院の看護師に実技を行ってきました。中には巻爪、二枚爪、肥厚、胼胝、鶏眼の方もいました。基本的なことは知っていても、なかなか実践できないことがあります。

私たち看護師でもセルフケアを行うのは困難です。糖尿病などの患者さんが、自分の足をみてケアすることはより困難であると考えられます。したがって、意識付けや相手にわかるような指導・アドバイスができるように、レベルアップをはかる必要を感じました。

当院には皮膚排泄ケア（WOC）認定看護師も在籍し、意見を聞きながらフットケアを行い、いずれはフットケア外来を立ち上げ、一人でも多くの足病変の早期発見に努めたいと思います。

「たかが足、されど足」、侮れません。

外来診療担当表

※は手術日

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内科	午前	1診	舟木	島倉	舟木	老子	舟木
		2診	島倉	高田	長澤	高田	島倉
		3診	長澤	長澤	長澤/舟木	島倉/長澤	舟木/島倉
	午後	1診	老子	長澤	長澤	舟木	老子
		2診	高田		高田		
外科	午前	大上/湯口	大上/湯口	大上/湯口	大上/湯口	大上/湯口	
	午後	大上/湯口	大上/湯口	※大上/湯口	大上/湯口	大上/湯口	
整形外科	午前	中山	中山	中山	中山	中山	
	午後	中山	※中山	中山	中山	中山	
産婦人科	午前	井川	井川	井川	井川	井川	
	午後	※井川	井川	井川	井川	井川	
眼科	午前	坂井	坂井	坂井	坂井	坂井	
	午後	坂井	坂井	坂井	※坂井	坂井	

富山通信病院地域医療連携室

電話番号：076-421-7819

F A X：076-421-7829